

平成27年度第3回京都市民健康づくり推進会議摘録

1 開催日時

平成27年11月2日（月）午後1時～午後3時

2 開催場所

本能寺文化会館5階 醍醐ホール

3 出席者

京都大学大学院医学研究科教授	中山 健夫
京都府立医科大学大学院医学研究科 准教授	栗山 長門
市民公募委員	駒井 一正
市民公募委員	内貴 多枝子
京都市地域女性連合会副会長	加藤 アイ
京都市PTA連絡協議会副会長	岡 千栄子
京都市保健協議会連合会副会長	山内 寛
すこやかクラブ京都（（一社）京都市老人クラブ連合会） （公社）京都市私立幼稚園協会理事	川島 康伸 藤原 光二
京都府私立中学高等学校連合会事務局長	室 保次
京都大学健康科学センター教授	石見 拓
京都労働者福祉協議会総括部長 （一財）京都工場保健会課長補佐	岡田 信江 井上 崇
京都産業保健総合支援センター副所長 （一社）京都府医師会理事	真下 尚之 藤村 聡
（一社）京都府歯科医師会理事	岸本 知弘
（一社）京都府薬剤師会専務理事	茂籠 哲
（公社）京都府看護協会専務理事	中島 すま子
（公社）京都府栄養士会会長	岸部 公子
（公社）京都府歯科衛生士会会長	白波瀬 由香里
（一社）京都精神保健福祉協会事務局長	吉村 安隆
（一財）京都予防医学センター健康推進係長	鮎子田 睦子
（特非）日本健康運動指導士会京都府支部支部長	一島 康樹
京都府国民健康保険団体連合会事務局次長	長谷川 敏彦
健康保険組合連合会京都連合会SGHG常務理事	新谷 元司
全国健康保険協会京都支部企画総務部長	山上 義孝
（株）京都放送ラジオ営業局長	湯浅 勝

京都市教育委員会保健安全課長		上田 廣久
京都市保健所伏見保健センター長		里村 由紀子
京都市衛生環境研究所所長		川上 雅弘
京都市健康増進センター所長		板垣 泰子
事務局	保健医療・介護担当局長	居内 学
	医務監	谷口 隆司
	保健衛生推進室長	松田 一成
	保健担当部長	吉山 真紀子
	保健医療課長	志摩 裕丈

4 摘録

【開会の挨拶】 居内保健医療・介護担当局長

○事務局（志摩保健医療課長）

失礼いたします。定刻となりましたので、ただ今から平成27年度第3回京都市民健康づくり推進会議を開催させていただきます。

皆様方には本日大変お忙しい中、当会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。それではまず会議の開会に当たりまして、京都市保健福祉局保健医療・介護担当局長の居内から御挨拶申し上げます。

○居内保健医療・介護担当局長

皆様こんにちは。京都市保健福祉局保健医療・介護担当局長の居内でございます。

本日は、お忙しい中、第3回健康づくり推進会議に御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

前回、第2回の会議の際に、御報告をさせていただきましたように、これから市民の皆様様の健康寿命の延伸に向けて取組を進めていこうと、そのために多くの市民の方々が自ら率先して色んな取組に進んでいけるよう、市民主体の新たな活動、運動組織を作ってまいりたいと、御報告させていただいたところでございます。

その後、それぞれ健康づくり推進会議に御参画いただいています団体様を含めまして、70を超える団体、事業者の皆様につきまして、新しく作る組織に参画をお願いできないかどうか、それぞれ取組を進めてきました。現時点でほとんどの団体の皆様に御了解をいただいております。この場でこの間の色んなお話をお聞きいただいた各団体の皆様に改めまして、御礼申し上げます。

一方で、新しい組織を設置する趣旨、団体の構成がどうなるのか、新しい組織を設置したら具体的にどのような取組を進めていくのだろうか、市民主体の組織との役割分担はどうするのか、様々な御質問をいただいているところでございます。本日はそういう色々なことを踏まえまして、健康づくり推進会議のこの場にて改めて、御説明をさせて

いただきまして、共通の御理解を得たうえで、「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

そういうことで、本日は、「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」という風な形で関わってまいります、基本的な方向性、具体的な取組に関しまして、大きく3点ほど、お話しさせていただきたいと思っております。

まず1点目は、「健康長寿のまち・京都」の方向性と現在考えております取組の内容についてでございます。2点目は、この「健康長寿のまち・京都市民会議」、仮称ではございますが、準備会の設置と構成団体について具体的なお話をさせていただこうかと思っております。3点目は、市民全体で健康づくりの機運を高めていく、最初の取組として、11月29日に開催する予定ですが、キックオフイベントの内容についてもお話をさせていただこうかと思っております。

本日お越しいただいております皆様、時には活動の核となり、また、時には色々な活動に支援をいただくことが今後ますます必要になってくると考えております。

そのため、本日のこの場におきまして、皆様から忌憚のない御意見、また更に連携を深めるための色々な検討をできればと考えております。是非活発な御意見を賜りまして、本日の会議が、実りあるものとなりますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（志摩保健医療課長）

ありがとうございました。

本日の会議終了は、午後3時を目途としておりますので、御協力いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

なお、本日の御出席いただきました皆様方につきましては、お手元の資料2「出席者名簿」、資料3「座席図」をお付けしておりますので、御紹介に代えさせていただきます。

それでは、以後の議事進行につきましては、本会議の議長であります中山議長にお願ひいたします。

中山議長、よろしくお願ひいたします。

○中山議長

皆様、こんにちは。京都大学の中山健夫です。御指名により、当会議の進行は、私が務めさせていただきたいと思ひます。

それでは、報告案件の「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」に係る基本的な方向性と具体的な取組案について、事務局から説明をお願ひいたします。

【報告】「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」に係る基本的な方向性と具体的な取組（案）

○濱口保健医療課課長補佐

それでは、お手元に配布の資料5を御覧ください。

「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」に係る基本的な方向性と具体的な取組案について御説明させていただきます。

まず、「1 基本的な方向性」に関してですが、「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」につきましては、これまで御説明させていただきましたとおり、「一人ひとりの市民自らが行う健康づくりの取組を、全ての市民が参加する運動に広げることで、市民の健康寿命を平均寿命に近づけ、年齢を重ねても地域の支え手として活躍できる、活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現する。」ことを目標としております。

そのための仕組みづくりといたしまして、京都市に設置しました「健康長寿のまち・京都推進本部」におきまして、徹底的な庁内連携を図るとともに、関係団体の皆様からも御意見を頂戴しながら、検討を進めてきたところでございます。その検討結果を踏まえまして、まずは、京都の持つ市民力や地域力を源泉といたしまして、健康寿命の延伸に向けた理念の浸透を図っていく、市民全体の機運を盛り上げる取組を速やかに実施していく、その土台の上に立って、一人ひとりの市民が自分に合った取組に参加できるように、多様な健康づくりの機会の創出、情報提供の充実に向けた取組を来年度から本格的に実施してまいりたいと考えております。

そのことによりまして、全ての市民が健康づくり活動に参加し、年齢を重ねても、いきいきと活躍できる地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現させたいと考えております。

次の頁「2 具体的な取組（案）」を御覧ください。

「(1) 健康寿命の延伸に向けた機運の醸成」について説明をさせていただきます。

まず、オール京都で健康づくりを推進するための運動組織の設置に関してでございます。

健康づくり推進会議の構成団体の皆様には、既に参画のお願いをさせていただいておりますが、健康づくりをオール京都の取組として推進するため、幅広い市民団体、民間企業等の皆様による「健康長寿のまち・京都市民会議」、仮称でございますが、来年度の春の立ち上げを想定しております。

その準備段階として、準備会の設置を予定させていただいております。準備会の詳細につきましては、後程御説明させていただきます。

次に、今月28日、29日に開催いたします「市民すこやかフェア」と連携いたしまして、「健康長寿のまち・京都」キックオフイベントを開催するなど、様々な機会を活用した形で普及啓発、PRに努めてまいりたいと考えております。

3点目に、全ての市民の共感を得ながら今後の取組を広げていくため、「健康長寿の

まち・京都」の目標及びロゴマークの設定を考えております。これらに関しましては、市民公募により、幅広く市民参加をいただくことで、この取組、公募自体を機運醸成の機会としていくことを考えております。

最後に、準備会に参画いただきますマスコミ及び出版社等の協力を得て、「健康長寿のまち・京都」の取組の周知、PRに関しまして、より効果的な情報発信に努めてまいりたいと思います。

次に「(2) 多様な健康づくりの機会の創出」を御覧ください。

まず、「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」の構成団体間の相互交流・連携を図ることによりまして、ライフステージ、活動分野や地域・職域ごとの健康づくりの推進を考えてまいりたい。

次に、「健康長寿のまち・京都市民会議」に参画いただきます、大学や神社仏閣、健康づくりの関連企業等に、健康づくりの活動の場や機運の提供に係る御協力をお願いするなど、身近な健康づくりの場や機会の拡充に向けた取組を検討してまいります。

3点目に、「健康長寿のまち・京都」のポータルサイトの開設でございます。一人ひとりの市民が自分自身に合った健康づくりの取組を見つけることができるよう、本市の事業のみならず、「健康長寿のまち・京都市民会議」の構成団体の事業等も含めた多様な健康づくりの情報発信に向けた取組を検討してまいります。

最後に、多様な健康づくりの機会の創出のための融合策や新規リーディング事業について、さらに「健康長寿のまち・京都推進本部」をはじめとする各種会議において検討を進めているところでございまして、現在、平成28年度予算の要求作業を進めているところでございます。

なお、資料に記載の「(融合策の例)」ということで記載しておりますが、例えば、3つ目の「市民農園を活用した食育事業の実施」ということで、簡単な調理加工設備を有する「久我市民農園」におきまして、市民農園の入園者グループや近隣住民を対象とした生産から調理、食までを考え、実践する融合事業を実施するものを案として挙げさせていただきました。

次に、「3 「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」準備会の設置について」でございます。

目的に関しましては、これまでに申し上げたとおりです。

準備会につきましては、後程お話いたします、「健康長寿のまち・京都」キックオフイベントにおきまして、設立発表及び構成団体の御紹介を行ってまいりたいと考えております。

構成団体につきましては、健康づくり推進会議構成団体の皆様をはじめ、約70を超える関係団体等に対しまして、参画の呼びかけを行ってまいりました。この場にて改めて説明いたしますと、アからエに記載をしておりますが、各ライフステージ、「食文化」、「運動」といった活動分野、健康づくりの活動の場の提供等に協力いただける団体等に

加え、市民に対しまして戦略的な広報活動を進めるために、マスコミ、出版社等にも構成団体として参画をお願いさせていただいているところでございます。

構成団体の詳細は、資料を2枚めくっていただくと、一覧を添付しておりますので御参照いただければと思います。なお、この一覧の並びに関しましては、先ほど申し上げましたアからエの考え方にに基づき、各団体を区分分けしておりますので御了承ください。

資料を戻りまして、(4)「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」の正式発足に向けた組織のあり方及び活動内容の検討（素案）」についてでございます。

先ほども申し上げましたとおり、市民会議は、来年度早々の正式発足を検討しております。

正式発足に向けましては、組織のあり方及び活動内容等につきまして、本市の基本的な考え方をお示ししながら、準備会におきまして、意思形成を図っていただくことを考えております。

まず、組織のあり方についてですが、推進体制に関しましては、「健康長寿のまち・京都」の取組に御賛同いただける市民団体、民間企業、大学、宗教関係団体等を構成団体と想定をしている中で、規約に基づく任意団体として設置をしてみたいと考えております。

また、保健福祉局に事務局を設置いたしまして、各構成員の皆様との連絡調整等に係る事務を行ってみたいと考えております。

大きな組織となりますので、機動性を確保しつつ、課題やテーマに応じたワーキンググループの設置を順次検討しております。

また、活動方針等の重要事項を組織決定するために、構成団体の中から代表者、10名程度を選定しておりますが、世話人会を設置するとともに、著名人に「健康大使」等に就任をいただく中で、「健康長寿のまち・京都」の取組や理念の情報発信に協力いただきたいと考えております。この取組の輪を少しずつ広げてみたいと考えております。

最後に活動内容についてですが、更なる運動の拡大に向けました賛同団体の呼びかけや健康づくりの理念、取組の普及啓発、情報発信等への協力、ライフステージごと、地域・職域ごとの健康づくりの企画もお願いしてみたいと考えております。

以上、申し上げました内容を下に図示しておりますので、参考に御覧ください。

「4 「健康長寿のまち・京都」キックオフイベント」の開催に関してでございます。イベントの開催につきましては、既にお知らせしましたとおり、今月29日にみやこめっせ1階のメインステージにてイベントを開催する予定です。

イベントの内容としましては、市民会議準備会の設立発表を行った後、各構成団体の皆様の御紹介をさせていただく風に考えております。本日、お越しの推進会議構成団体の皆様にもイベントへの御参加をお願いさせていただいたところでございますが、改めて御協力のほどよろしく願いいたします。

資料を2枚めくっていただくと、「健康長寿のまち・京都」のPRブースの出展一覧を添付しておりますので御参照ください。

キックオフイベントに合わせまして、各団体の御紹介、事業説明等、情報発信をさせていただきますブース、配架用パンフレット等を設けておりますので、パンフ・チラシ等の配架について御希望がございましたら、お申し出いただきたいと思っております。

最後に、「5 市民参加の下での「健康長寿のまち・京都」の目標設定やロゴマークの制定」でございます。

目標設定に関しましては、行政主導で決めるのではなく、実際に健康づくりに取り組まれる市民の皆様御自身の共感を得られる目標とするために市民参加により進めていくものです。

「健康長寿のまち・京都」の目指すべき将来像や一人ひとりの市民の皆様が取り組むべき活動内容につきまして、分かりやすい目標として設定し、「健康長寿のまち・京都」の取組を広く普及啓発するために、広く市民に公募いたしまして、案を募り、今年度中に制定してまいりたいと考えております。

来年度以降、構成団体の皆様におかれましても、健康づくりに関する事業の広報や活動を通じまして、積極的に目標及びロゴマークの普及に向けました御協力をお願いしたいいたします。

事務局からの説明は以上でございます。

○中山議長

御説明ありがとうございます。事務局には忠実に検討していただき、ディスカッションのスタートラインとして良くまとまっているかと思っております。

事務局から説明がありました、「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」に係る基本的な方向性と具体的な取組（案）について、御意見等を皆様からいただきたいと思っております。

どなたからでも結構でございますので、いかがでしょうか。

私から一つ確認したいのですが、特に地域の利用可能資源を考えたときに、大学が京都市内に大体何校あるか分かりますでしょうか。今すぐ分からなければ、また確認いただきたいのですが、京都は寺社、学生のまちと言われますが、特に医療系の学校で、府立医大などがありますが、それ以外で薬学、看護、様々な医療系の大学があり、裾野が広いのではないかと思います、そのあたりで協力を深めてはいかがかなと思っておりました。御検討いただければと思います。

○すこやかクラブ京都（川島常務理事）

文言の話で、基本的な方向性として、一番目の○、3行目、市民の健康寿命を平均寿命に近づけるという文言ですが、高齢になってくると平均寿命が終わったら、終わらな

のか。表現上、そういうことではないと思いますが、このあたりについてお聞きしたいのですが。

○中山議長

確かに個人個人を見れば、90歳でお元気な方もいらっしゃいますね。

○事務局（志摩保健医療課長）

ありがとうございます。もう少し全体的なお話だと分かるような表現にさせていただいた方がよいと思います。我々の取組のベースの健康づくりプランの全体目標が「京都市民の健康寿命を延伸し平均寿命に近づける」ですので、健康寿命を皆様の平均寿命に、健康な寿命を伸ばしていくという趣旨でのことでありますので、一人一人の寿命というわけではございません。

○すこやかクラブ京都（川島常務理事）

平均寿命より上の人をどうするのか。

○中山議長

お元気な人がさらにお元気で、みたいな。ちょっとした文言でも誤解されますので。

○事務局（志摩保健医療課長）

誤解のないようにさせていただきたいと思います。

○中山議長

他に何か御意見があれば、おっしゃってください。それでは、よろしければ、一人一言ずつでもいただければと思うのですが、よろしいですか。せっかくスタートラインで大事だと思しますので。医師会からお願いできますでしょうか。藤村先生。

○京都府医師会（藤村理事）

藤村でございます。多くの市民団体の方にお集まりいただき、非常に良い組織になると思います。ただ、これから先のことなのですが、具体論がほしいと思います。例えば、幼少期、青年期、高齢期、女性、障害者、食文化、食習慣など、これは良いのですが、それぞれの部会でできたら、それぞれのところで目指すスローガンが必要ではないでしょうか。幼少期、青年期は、将来の健康長寿にどうつなげていくのか。女性の方は特有の健康問題がございますので、具体的には骨粗しょう症など、女性の方の健康寿命をどう伸ばすのか、具体論をそれぞれの部会で決めていただいて、それぞれのスローガンを作っていくって進めていただければと思います。

○中山議長

地域女性連合会，加藤副会長お願いいたします。

○京都市地域女性連合会（加藤副会長）

地域女性会でございます。先ほどの骨粗しょう症，一番皆が気にしていることです。

先ほど質問がありました，平均寿命以上はどうするのか，ということですが，健康寿命までに達するまでは健康であるということですね。皆で健康づくりを進めていくということは，大変重要ですが，健康長寿と言われるまでに，健康な状態で，と私は受け止めているのですが。

○事務局（志摩保健医療課長）

少し丁寧な表現を検討させていただきます。今の御質問についてでございます。私の解釈の間違いでしたら御指摘をいただきたいと思いますが，このスローガンは，例えば女性でしたら，日本の女性の平均寿命は，86，87歳と言われますが，女性はその年齢まで健康でいましょうね，というスローガンではございません。お一人お一人の生涯の中で，最後まで健康でいていただきたいという目標でございますので，皆様がそうならなければ，皆様の平均寿命，健康寿命が等しくなろうかと思っております。最後まで健康で過ごせるように，というのがこの目標であるかなと思っております。

○中山議長

是非そのあたりがうまく伝わるような形にしてください。

市民委員の駒井さん，お願いいたします。

○市民公募委員（駒井一正氏）

本日の資料を確認してようやく理解することができました。前回の8月24日のときには，皆様からの御質問があつて，事務局の回答を受けてちょっとずつ理解できた感じでしたので，結局帰るときには少しもやもやした感じで帰りました。今日来て資料を拝見して，ようやく理解できたという状態です。

先ほどの何人かの方から出ています，健康寿命，平均寿命についてですが，日本全国一般的にそのような表現がされていますし，男性の場合，健康寿命と平均寿命との間に9歳程度差がありますし，女性でも12歳程度差があります，この間が実は統計学的に言うと，何らかの介護が必要な期間ということになりますので，これをできるだけ短くしたいと，個人的にも元気でいたい，自治体，国もできるだけ医療費を少なくしたいという趣旨ですので，この表現は一般的に通用しているのだらうと思っております。個別には元気な人は元気でおりますので，非常に良いことだと思っております。ですので，表現上，これしか仕方ないと感じました。

このキックオフイベントの最後に、11月29日の健康づくりサポーターによる健康体操実演などが午前9時30分から10時30分までの中の最後にありますが、山科の健康づくりサポーターがこれに出てロコモ体操を披露するという事となっています。立ちバージョンと座りバージョンの2つを企画しております。キックオフイベントがんばります。

○中山議長

それでは、内貴委員よろしくお願いたします。

○市民公募委員（内貴多枝子氏）

難しいことはあまり分かりませんが、公園体操とか色々なところで、健康寿命、平均寿命について、みなみーずとして色々な先生に来ていただいて、勉強会もしております。そのため、多少は分かるようになってきました。公園体操に来ていただいている高齢者の方たちも毎回動作の説明をすると、だんだん覚えてこられました。音楽に合わせて、脳トレも合わせての体操など、健康寿命の延伸に役立っているのではないかと考えています。

駒井さんがおっしゃられたように、29日のキックオフイベントでみなみーずのブースで、健康体操を担当します。オリジナルで作った世界で一つだけの花の曲に合わせた手話入りの体操や、リズム体操のようなものですが、結構人気がありまして、一昨年もその前もそのような形でみやこめっせで披露させていただいております。

○京都市PTA連絡協議会（岡副会長）

私はPTAの代表で来ておりますので、先日京都市に説明に来ていただいた際に、京都市のPTAの会長と、幼小中高総合支援学校5つの団体で構成されており、今会長は中学校PTAの会長ですが、役員会のときに京都市に御説明をいただいて、承認を得たのですが、こういうイベントがあるときに何か口頭ではなくて、チラシなど、PTAの方でいつも連絡網で使っておりますのが一斉メールなんですけど、例えばPTAフェスティバルというイベントの実施を全保護者へ送っていますので、そういうことができれば、知った人、周りだけに声を掛けるのではなくて、もっと広がっていくかと思っておりますので、そういう活用方法をまた教えてほしいと思っております。

○中山議長

すこやかクラブの川島委員、よろしくお願いたします。

○すこやかクラブ京都（川島常務理事）

こだわわるわけではないのですが、老人クラブ全員、平均寿命のスローガンは使わない、

伸ばそう健康寿命をスローガンとしています。それだけで良いのでしょうか。90歳でもお元気な人、たくさんおります。平均寿命以上生きられているわけなので、誤解が生まれてはいけないのでは。そのあたり、表現を少し直してほしいと思っています。

○中山議長

京都市私立幼稚園協会の藤原委員お願いいたします。

○京都市私立幼稚園協会（藤原理事）

幼稚園教育では人間の基礎基本を作ることになります。その中で心と体の健康はとても大切なことで、食育等も含め、幼稚園教育のメインの部分になります。幼児期の子どもは、周りの大人が教えたことをまるで吸い取り紙がインクを吸い取るように、吸収してくれますので、幼稚園では、運動の大切さや体に良い食べ物などを伝えるよう取組を進め、また、保護者の方にも協力いただいています。

幼児期は、健康づくりのスタートラインの部分で幼児教育でもとても大事にしている部分です。今回、初めて出席させていただきましたが、健康づくりに向けて京都市としても幼児期から取り組んでいただけることになるのかなと思っています。

○中山議長

私立中学高等学校連合会の室委員よろしくをお願いいたします。

○京都府私立中学高等学校連合会（室事務局長）

私どもの立場で言いますと、私学の子どもたち、高校だけで、4割以上の子どもたちが通学しています。多くの子供たちをお預かりしてしまして、そういった観点からお話しをしようかと思っていたのですが、自分のことでお話しさせていただきます。

先週の火曜日に食育推進部会がございまして、その部会の中でも出ていたと思いますが、40、50代の方々の運動力が減ってきているというデータ等をたくさん見せていただき、色々な議論を聞かせていただきました。その中でこれからも是非と思うのが、基本的に定年退職をして、動き始めたら、毎日のように運動できるわけです。時間的なゆとりを持てる。ところが、それが無い方々、特に管理職員の方々は非常にお忙しいと感じられている中で、是非キックオフイベントの中でも参加団体を広げていただき、企業などに京都市がこのような取組をして、市民全員、今後の健康づくりを進めているんだという形で、一人でも二人でもあるいは一事業所でも是非響いていくような今後の在り方としてほしいなと私自身非常に感じておりますので、是非よろしくをお願いしたいと思っております。

○中山議長

産業衛生の分野では、ヘルシーカンパニー、健康経営、ブラック企業の反対になると思いますが、働く人への健康管理などに焦点が当たっていると思います。

京都大学の石見委員よろしく申し上げます。

○京都大学健康科学センター（石見教授）

京都大学の健康科学センターの健康科学部門の石見と言います。自分自身、本日初めて参加した会議で、十分に理解していないかもしれないですが、総論として京都市民全体にこういう運動を広げていく、一言で言うと、「良いこと」だと思っています。

本日は二人体制で、気合を入れて来ております。是非よろしく願いいたします。

我々、京都大学の学生さん、大学院生含めて22,000人、職員8,000人あわせて3万人おまして、小さなまち、むらみたいなもので、その健康管理の責任部門ということで関わっています。プロジェクトが具体化しましたら、学生さん、教職員へ具体的に広げていくということをしてしたいと思います。

それと、健康科学センターという名前ですので、健康を科学するという、我々エビデンス、データに基づいて客観的に改善していく、というところが我々の仕事だと思っています。中山先生は、自分にとっても先生であり、自分が大学院生だったときに教えていただいていた。こちらには教員が7人いるのですが、健康情報をデータにしていく、データにして改善に結びつけていく、いわゆるPDCAサイクルで回すということを得意にしている教室だという自負もありますので、この取組全体に対してのお願い、我々の提案としては、取組も具体的にしないとイケないし、ゴールがあって、目標設定を具体的に数値化してこれから議論できたらいいと思っています。健康寿命、例えば「90歳まで健康で生きられるような社会にしましょう」と言う形もあるのではないのでしょうか。それぞれの対象者に応じて具体的な目標設定をするというのは、機運を盛り上げて、達成できればよかったし、できなかったらどこかを改善するなど明らかにしていきたい、そういう関わり方をしていきたいと思っています。

本日、初めて参加して言うのは恐縮なのですが、大人数での議論はまとまらないので、部門ごとに少人数にしてそこで目標設定を挙げていく、是非スモールグループで大きなプランだと思いますので、議論を加速できる体制で、全体でシェアして、全体で共有する目的は何なのかみたいな展開ができればいいと思いました。

○中山議長

ありがとうございます。石見教授や岡林先生が後ろにいらっしゃるのは私自身にとっても大変心強いことです。色々なデータの解析、スローガンは確かに大事ですが、きちんとしたデータに基づいていることが重要です。また改めてよろしく願いいたします。

では、労福協の岡田委員よろしく願いいたします。

○京都労働者福祉協議会（岡田総括部長）

労働者福祉協議会の名前、難しいのですが、労働団体の代表と言う形で参加しております。組織化している組合がある団体を取りまとめているのですが、全国で言うと16%以下になってしまいますが、京都のような中小の企業が多い都市へは、なかなか下ろせない団体です。商工会議所、中小企業の方からは下りると思います。私のところで言わせてもらいますと、昨年度まで健康づくりフェアを京都テルサを使って6年間実施してきましたんですけど、4～50歳代の働き盛りの方に少しでも運動することに目を向けてほしいという形でイベントをさせていただいていたのですが、なかなか参加が難しく、お子様を連れて参加する方の場合には3、40代の方には来ていただけるのですが、実際にこちらが来てほしいと思っている方には、来ていただけない。補助金がおりなくなりましたので昨年で終わってしまったんですが。先日も京都市の方が来られて、御説明いただいたときにも、何をやるんですかね、大きすぎるのでは。実践するのはなかなか難しいですよという話をさせていただいていたのですが。お隣の先生もおっしゃったように、グループごとにしっかり目標を定めて、そこで実践できていくところをそれぞれ作っていくべきだと思いますし、御説明いただいた際には、既存の団体で今こういうことをやっているということをお知らせしている団体がどんどん参加すればいいねとおっしゃっていましたので、それぞれ小さいグループで相談しながらプラスしていってよいかと思います。

○中山議長

工場保健会の井上委員をお願いします。

○京都工場保健会（井上課長補佐）

今回から参加させていただいております、京都工場保健会と申します。私ども、企業で従業員の皆様の健康診断等のお手伝いをさせていただいております、従業員の皆様だけでなく、御家庭の奥様、定年退職された後の生活のフォローであったりだとか、そういう方々へのお手伝いをさせていただいております、健康づくりの基本はまずは健康診断を受けていただくことが大事なのではないかと考えております。ですので、京都市民の皆様の健康診断の受診率が少しでも上がるようにお手伝いできればと考えております。

○中山議長

産業保健総合支援センターの真下委員よろしくをお願いします。

○京都産業保健総合支援センター（真下副所長）

京都産業保健総合支援センターと申します。

産業保健ということで、分野で言うと、職域に入りまして、今日医師会から藤村理事が来られておりますが、うちの所長は森会長にお世話になっておりますので、健康にはかなり密接に関わりがありますけども、産業保健という意味で言いますと、事業概要としては国の補助金と交付金で事業を進めておりますが、メインは、各企業の産業保健コンサルティング、衛生管理者、看護職者、一般労務担当者の方など、そういった会社の産業保健スタッフ様の支援、研修会、相談事業などそういうことをメインにやっております。最近では、メンタルヘルスの関係の支援をやっております。今後、こういう推進会議を進めていく中で、研修については、年間80回程度、約7,000人の方に受講していただいておりますし、相談業務も約1,000件、各企業の担当から相談を受けているところです。それぞれの産業保健の相談員の方をお願いしておりますので、医師の方もおりますし、メンタルのカウンセラーの方もおられますし、労働衛生の方もおります。色々な職種、分野の方々がおられます。そういった方々に会議の中で、研修会や色んな催し物でブースを設けるとときには相談員さんにブースについていただけるので、そういった協力ができると考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○中山議長

京都市健康増進センターの板垣委員よろしく願いいたします。

○京都市健康増進センター（板垣所長）

京都市健康増進センターと申します。もう一度確認したいのですが、この健康づくり推進会議と市民会議の関係ですが、並立するものとして考えたらよろしいのですか。それとも市民会議へ移行していくものと考えてよろしいのでしょうか。

○中山議長

事務局いかがでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

先ほど御覧いただきました準備会の団体様の一覧表の次のページ、横長の資料があるかと思えます。上にこれまでの京都市民健康づくり推進会議、下に今後の推進会議と新しく作ってまいります、市民会議(仮称)の役割分担ということで図示しております。従来、健康づくり推進会議は、上で少し御説明しておりますが、健康づくりに関します取組の推進と啓発、計画に基づいて取組の推進をしていく、推進母体という役割と同時に啓発、情報発信にも御協力いただいております。実働部隊としての役割、その取組の基になります、プランの進捗、見直しに際しましての意見交換、御意見をいただくということです。先ほども御紹介いたしました、これが現在の健康づくりプランに基づく取組を推進していく中で、進み具合、できているかどうかの点検、進捗管理や次のプラン

の見直しの際には、様々な御意見をいただいたり、どちらかといえば、企画立案に係ります役割、この2つを同時に合わせ持っていただいて、両方をもって、この会議の役割ということにいたしております。今後は、一つには市民ぐるみで運動を作っていこう、市民運動組織で取組の推進母体を、もう一つのプランの企画立案、進捗立案に特化して、引き続き健康づくり推進会議で担当いただく役割を担っていただくということで、企画立案を検討していただく母体と運動を進めていただく情報発信、啓発とあわせて、運動を広げていく組織の2つを担っていただくと考えております。

こういったこともあわせて御議論いただきたいと思います。

○京都市健康増進センター（板垣所長）

先ほど平均寿命と健康寿命ということですが、健康というと、病気にかかってないというイメージがどうしてもありますので、御高齢でも自立して御活躍されているということで、「自立期間」という言葉を入れてみると分かりやすくなるのではないかと思います。

京都市健康増進センターでは、京都市の委託を受けまして、10年間ほど高齢者の筋トレボランティアの養成をしており、約500人程おられます。皆様が地域で御活躍されているわけですが、ただボランティアさんの言葉が資料には一言もありません。健康づくりサポーターの文言は出てくるのですが、資料の中の「健康づくりサポーター等」の「等」に入っているのでしょうか。筋トレボランティアさんの位置付けはいかがなものでしょうか。

○中山議長

当然のことながら、仲間となつていただける方々だと思いますが、そういうような御理解でよろしいでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

はい。

○中山議長

今の御発言で、筋トレボランティアが500人いることを覚えてくださったのではないのでしょうか。

では、京都市の衛生環境研究所の川上委員よろしくお願ひいたします。

○京都市衛生環境研究所（川上所長）

衛生環境研究所でございます。こちらでは、市民の健康を守るための様々な検査、研究、調査を行っているのですが、例えば感染症のウイルス、細菌の検査、食品の安全性

に関わる検査、環境問題の検査、調査などを行っております。これからも市民のニーズに応じて充実させていく必要があると思っておりますし、また感染症に関する情報も定期的に発信しているのですが、医療関係者、市民の皆様に分かりやすい情報発信をしていく必要があると感じております。

○京都市保健所（里村伏見保健センター長）

保健センターの立場でこんな質問をここでしていいのかわかりませんが、させていただきます。健康づくりプランに出てくる京都市の健康寿命は、全国に比べて良い数値が出ており、男性が約2歳、女性も4歳程度の差しかないのですが、すごく良いのではないかとの感想が伏見区の健康づくりサポーターから出ています。国としては、2020年までに健康寿命1歳以上を延ばす目標を立てておりますが、京都市としては、その数値目標はしんどいのではないのでしょうか。

これだけ色々な団体の方がいらっしゃいますと、行政区ごとの縦割りを廃してとなると思いますが、サポーターは各行政区にいらっしゃいますし、刺激のし合いというの必要だと思いますが、行政区ごとに何か取り組みと言われるのではないかと、ということを区長が気にされています。ここで聞くのもどうかと思いますが、聞きたいと思います。

このキックオフイベントの11月29日の山科のサポーターさんに体操していただくことは分かったのですが、伏見もエントリーしていると思うのですが、いかがでしょうか。

○中山議長

この点について、事務局からいかがですか。

○事務局（志摩保健医療課長）

最初の健康寿命の京都市のプランに掲載しております数値につきましては、今年度第1回目の会議でも御説明をさせていただきましたが、本日初めて御出席いただいている方もおいでになりますので、おさらいで御紹介させていただきますと、このプランの京都市の健康寿命、男性78.5歳、女性82.9歳ということで、当時の平均寿命との差がおおむね2～4歳くらいで、全国的に言われています、健康寿命と平均寿命の差で言いますと、男性約9歳、女性約12歳ということで、このプランより数値の開きが大きくなっております。こちらのプランの方では、介護保険の給付の認定を受けておられる方の状況に基づきまして、毎年数値の算定が可能なので、また京都市での算定が可能だということで、かつてはその数値を活用しておりまして、プランでもその数値を紹介しております。ただ、全国的によく使われますのが国民生活基礎調査の回答を基に、各都道府県、主要な大都市の数値を出されていますが、国が出す数値であること、その調査がおおむね3年ごと、直近の25年度の調査についてとりまとめをされているような

のですが、各自治体の数値を公表されていませんので、最新の数値がお手元にないまま、少し古い数値を使っていることが現状でございます。全国との比較をいたします場合には、開きの大きい数値を使う方が誤解がないということで、この間の取組を進めるうえにおきまして、全国の数値と比較ができる数値を使いながら議論しておるところでございます。

その中でも目標のお話しですが、先ほどから御意見をいただいておりますが、健康寿命を何歳にしようというようなスローガン、目標など設定議論されていますが、エビデンスに基づく目標設定が難しいところもございますので、皆様で共有できるスローガンやイメージできる目標として何か設定できないかという議論をこの間進めてきているところです。以上でございます。

○中山議長

健康寿命は、いくつか算定の方法がございますので、数値が一人歩きしないように気を付けていきたいなと思います。

○京都市教育委員会（上田保健安全課長）

私も健康長寿の大切さは分かりますが、何人かの委員からも出ていたように、幅広い取組で、風呂敷を広げて色々な団体に入っている取組ですので、まずは大切さを啓発した後は、何が重要なのか、テーマをいくつか設定して、そのテーマに基づいた関係するところが集まって、取組を進めることが必要ではないかと思います。具体的にテーマの例を挙げますと、私が担当している業務の課題として、児童生徒の健康診断の調べる項目が変わり、来年度から四肢の状態、運動器を調べるという項目が加わることに關してです。手足・筋肉・骨格が育っているかなどを健康診断で調べるのですが、子どもたちは、最近すぐにこけてしまうとか、背骨が曲がっているとか、運動能力の2極化となっていて、小さいときからあまり運動せず、運動の習慣がないため、手足・骨格等の発育が不十分となっている一方で、特定のスポーツを一生懸命やって膝を痛めたりする子もいるというのが課題です。健康長寿とすぐに結びつかないかと思ってしまうのですが、バランスの悪い子どもが年とったらどうなるのかなど、課題と思っていますし、乳児期のハイハイから始まって、小さい時から公園で遊ぶことが減っているなど、乳幼児期に関わる団体とも連携し、親に運動習慣がないから子どもにもさせない親の世代の取組とも連携して、運動をテーマにしたり、あるいは食をテーマにしたり、いくつかテーマを絞っていくのが良いかと思います。

○中山議長

京都放送の湯浅委員よろしくお願いたします。

○京都放送（湯浅ラジオ営業局長）

推進会議から市民会議という形となって、マスメディアの構成団体を増やすことは良いかと思います。そもそも健康寿命という言葉について、まだまだわからない人がいるので、各マスコミの得意分野をいかして発信していければと考えます。またキックオフイベントに関しては、KBS京都が、20年来、『市民すこやかフェア』を受託している関係から、キックオフイベントも少しお手伝いしております。広い会場ですので、皆様に出席いただいて盛り上げていただきたいなと思っています。是非よろしく願いいたします。

○中山議長

全国健康保険協会京都支部の山上委員よろしく願いいたします。

○全国健康保険協会京都支部（山上企画総務部長）

全国健康保険協会京都支部の山上でございます。私ども協会けんぽ京都支部は、加入者が87万人、事業所数4万社という、現役世代の方が加入されている保険を取り扱っている会社でございます。先ほども現役世代の方がイベントに参加できない、意識があってもなかなか健康づくりに時間がさけないなどのお話しがございましたが、私共は、今年度から健康経営、社員の健康は、企業の業績に直結するという事で、会社の経営者として、是非従業員の健康づくりに投資してください、という考え方を一生懸命発信しております。加入者の健康度を事業所ごとに健康度診断、健診の結果、血圧が平均と比べて高いのか低いのかなど、あらゆるものを分析したものを企業にお渡ししています。また、会社に健康講座、約130回講座をしており、こちらからお伺いして、従業員さん向けに例えばメンタル、腰痛などの健康講座も実施をしています。

最近、血管年齢を測定する機械を数台採用しまして、各企業に1週間レンタルして、職場にて活用していただき、これが非常に人気がございます。なかなかイベントを実施しても土曜日や日曜日、現役世代の方は参加できないため、通常業務の合間に健康意識を高めてもらう、そういう活動を精力的に行っております。京都の健康寿命をいかに延ばすかですが、そういう活動とうまくリンクできるように、色々なアイデアを出しながら御協力していきたいと思っております。

○健康保険組合連合会京都連合会（新谷常務理事）

健康保険組合連合会京都連合会の新谷と申します。健康保険組合は、全国1,400くらいあるのですが、そのうち、京都に本部がございます、30の健保組合連合会です。連合会の職員でなく、独自のそれぞれの健康保険組合、常務理事の集まりという形で、私も一企業の健保組合の役員をしております。ほとんど活動の対象というのは、自分の健康保険組合加入者を相手に色々な事業を行っているわけですが、京都の連合会議の加

入者を対象に、健康ウォークであるとか、健康に関する食の講座であるとか、そういった活動をしております。対象は職域ということで、行政区区域との連携というのは、会費を徴収している関係上、難しいところはあるのですが、联合会としては、この活動に参画して、協力していくというコンセンサスはとっておりますので、キックオフイベントから参加をさせていただきたいと考えております。

本日の説明を伺って、確認をしたいのですが、まずキックオフイベントにどれくらいの規模で参加をすればよいのか。まだイメージがわからないので、例えばこの联合会として、数人が会場に上がってそのうち一人が何か発言するとか、その参加の規模が、京都市に在住している社員が少ないもので、企業内の方ではないので、協力をお願いしないと、なかなか人集めが難しいので、そのへんの規模感のイメージを教えてくださいませんか。そのうえで準備会の設立があって、その中でワーキンググループ、世話人会などの構成が決定していく、活動については、具体的な内容等はこれから色々討議されて決められていくというような内容でよろしいのでしょうか。

○中山議長

事務局いかがでしょうか。

○事務局（志摩保健医療課長）

まずキックオフイベントのイメージですが、まずは市民運動組織準備会へ御参画いただきまして、このイベントにも御参加を、と。イベント自体は11月28、29日の2日間ございまして、健康づくりに関するブースを集めておりまして、御協力を各方面からいただいておりますので、是非お越しいただきたいと思っております。中でもとりわけキックオフの宣言をいたします、メインステージでのイベント、29日の午前9時30分から約1時間を予定しておりますが、すこやかフェアの会場のメインステージの客席が、折りたたみ椅子ですが、200席ほどあります。その周囲には、取り巻いて立ち見にはなりますが、とりまいてお集まりいただくスペースがあり、かなり広い規模のものです。先ほどKBSのお話しでもございましたが、かなり広い規模で多数御参加いただきたいと思っております。4～500人お越しいただいたら、非常に盛り上がった感じが出るのかなと思っておりますので、皆様に御参加いただきたいと思っております。特に地元の団体様には個別にもお願いをしたりということで依頼させていただいております。あわせて、色々な分野からもお誘い合わせのうえ、御参加をいただければと思っております。お越しいただきました、代表の方、どなたかお一人ということにもなろうかと思っております、御紹介させていただいた折には壇上に上がっていただく、それをもって、紹介をさせていただきます、御発言をいただく時間など、暇がないのかなと思っております。御紹介させていただきますましたら、ステージに上がっていただくというイメージです。詳細な項目は後日連絡をさせていただきたいなと思っております。なお、メインステージのイベント

が終了いたしました後に、この市民会議の準備会の第1回目の総会、その呼び方も含めて仮称でございますが、代表者にお集まりいただいて、今後の取組を御報告、御確認させていただくお時間を概ね40分程度になろうかと思えます。引き続いての御参加をよろしく願います。

○中山議長

京都府国民健康保険団体連合会の長谷川委員よろしく願います。

○京都府国民健康保険団体連合会（長谷川事務局次長）

国民健康保険団体連合会です。前回のこの会議の後と、先日の京都市の方から準備会の説明を頂戴した後、内部でどういった参画をすればよいのか、議論をしました。議論は深まらなかったのですが、私どもの事業の一つとしては、国保の保険者が行われます、保健事業を御支援申し上げているのが一つとなります。最近、少しずつ変わりつつありますが、保険者の保健事業へ今まで、イベントへの御支援を中心に進めてきたわけですが、昨年あたりからは医療・介護・特定健診のデータを使った保健事業を御支援させていただく内容へと少しずつ変わってきています。どういった形でこの推進会議に参加させていただくか、議論している最中でございます。今後、具体的な御指示があれば、積極的に参加をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○中山議長

日本健康運動指導士会京都府支部の一島委員よろしく願います。

○日本健康運動指導士会京都府支部（一島支部長）

今回、私、代理で初めてこの会議に出席させていただきました。今回、組織化を図られ、大きな組織となって取組を進めていくということで、非常に素晴らしいことだと感じています。その中で我々として何ができるのかと考えていかなければならないと思っています。今後、詳細が決まってきたら、できるだけ早く情報をいただければ、それを持って理事会等で検討していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○中山議長

京都予防医学センターの鮎子田委員よろしく願います。

○京都予防医学センター（鮎子田健康推進係長）

京都予防医学センターです。市民健診、がん検診、学童検診など、色々な年代の方を対象としたお仕事をさせてもらっています。

健康診断を気持ちよく受けてもらえる他、受診機会の拡大や、分かりやすい結果票も

大切だと思っています。市の職員の保健指導もさせていただいていますが、御自身の健康が心配な方もたくさんおられます。私達自身の健康づくりも大事にしていきたいと思っています。

○中山議長

こういったことをやる方々が最大限がんばってしますので、健康づくりの観点を改めて考えましょう。

京都精神保健福祉協会の吉村委員， よろしくお願いいたします。

○京都精神保健福祉協会（吉村事務局長）

京都精神保健福祉協会事務局長の吉村と申します。この推進会議の構成員となりましたが、あまり熱心に参加できていなかったと思います。健康づくりにつきましては、こころの健康も重要な課題だろうと私自身で思っており、その点で本取組の内容の中でその観点が少し少ないのかな、もう少しいわゆるメンタルヘルスの領域のことについても今回のプロジェクトの中に是非認識していただきたいと思います。今回立ち上げようとする、プロジェクト， 市民運動， 再三言われているわけですが、現在でも地域の小さな地域社会， 市民の方たち， あるいは職場など， 日々工夫しながらそういった健康づくりをしておられる， どちらかといえばインフォーマルな活動といったものがきっとあるだろうと思います。今回， 多様な団体が参加されている， それぞれの団体の活動以外にインフォーマルな活動， ちょっとした時間の中で行われている活動など， 是非取り上げて， それを情報発信していく， 共有していく， そういうシステムをいかしていく， そういうのが是非必要だと思います。そういったものがない限り， 市民運動はし得ないと思います。

最初に議長の発言があったと思いますが， 大学の眠っている資源， スペースの部分も含めて， 京都の大学， 夏休みにはしんと静まり返っている， 管理が厳しくてなかなか自由に入出りできないなどあるようですが， そういうものを含めて大学の眠っている資源を是非いかしていく仕組みも必要ではないかと思います。

皆様のお知恵をお借りしながら， こころの健康づくりについても私ども取り組んでまいりたいと思っておりますので， 今後ともよろしくお願いいたします。

○中山議長

歯科衛生士会の白波瀬委員よろしくお願いいたします。

○京都府歯科衛生士会（白波瀬会長）

歯科衛生士会の白波瀬と申します。私たち歯科衛生士は， 妊産婦の歯科検診に始まりまして， 乳幼児健診， 小中学校の歯磨き指導など， 色々なライフステージで関わってお

ります。成人歯科保健につきましては、多いのが老人会でのお口の健康のお話しなどで、お口が元気だと体は元気ということで、色々なお話しをさせていただいております。行政区における市民センターや地域包括支援センターなどからの要請でも行っております。今度のキックオフイベントでもブースを出展し、市民にお口の大切さを訴えたいと思います。なお、キックオフイベントのブース欄に記載いただいている、「お口の健康体操」ですが、「健口体操」に直していただければと思います。こういったイベントを通じて、歯科衛生士もアピールし、もっと広めていきたいと感じております。

○中山議長

京都府栄養士会の岸部委員よろしく願いいたします。

○京都府栄養士会（岸部会長）

前回の会議のときに、年度の目標をお決めになられてはどうかと発言させていただいたと思うのですが、今日のお話しを伺いながら、それぞれ目的が違いますので、同時進行はできるかなあ、それぞれの部門で目標を決めていけばよいのではないかと思います。ここの目的は生涯を健康で過ごすということが目標で、先ほどから何度か、健康寿命がどうのと話が出ていますが、役所的には成果が上がったかどうか知るために、健康寿命の数字が必要なると思うのですが、結果を評価するための道具なのかなと思います。

生涯を健康で過ごすという目的を、ロゴマークを募集するとおっしゃっておりますが、ここで標語も一緒に市民から募集してはどうでしょうか。皆様にわかりやすい標語も募集します、というのはどうでしょうか。

もうひとつ、エビデンスの話ですが、使い方によっては、間違えると大変だと私ども実感しております。血糖値を下げるためには、野菜を先に食べなさいという、研究成果としてはそうかもしれませんが、栄養状態が悪い状態の方がそれをされますと、栄養状態はますます悪くなります。ある程度、使い方によって、正しいことも間違ってしまうよ、ということも知らないといけない、この前も相談会にまいりましたときに、コレステロールがだめなので、お肉を食べない方がいらっしゃいますが、コレステロールも大事なものです、一言多すぎるのが困りますよ、というのが伝わっていませんので、その指導の方法もきめ細かく相対的な物の言い方ができない時代になってきております。それぞれ個々の持っている知識がばらばらなので、総括的に判断ができない方がそれをされると問題が起きます。ですので、肥満の方、低栄養の方も多いのが事実です。低栄養はタンパク質、コレステロール、骨の問題もありますし、やはり私どもの仕事としては、年代別でそれぞれの方々の問題は今年これを解決しましょう、それぞれの段階で問題を見つけられて計画的に、5年なら5年の目標とするのがこの会議でのやり方が正しいのではないかなと思います。それぞれの部署で目的を決めて、共通認識を持ちながら、

御意見を伺うという形に持っていったらどうかというのが感想でございます。

○中山議長

年度目標のこと、表現方法、エビデンスの方は、研究者は気を付けなければならない、エビデンスを作る、研究するというので終わりではなく、伝え方、作る、伝える、使う、と言うのですが、全部必要です。こういった観点からも御一緒できるようにお願いいたします。

看護協会の中島委員よろしくをお願いいたします。

○京都府看護協会（中島専務理事）

看護協会です。看護協会は、現在約16,500人の看護職で構成している団体です。大きな目的の一つに、府民の健康・看護医療の向上がありますので、日々の事業活動の中で展開しておりますが、今回の市民会議の設置の中で一緒に参画をさせていただきたいと思っております。先ほど大学などを参画しながらということで、と議長がお話しされておられましたが、今看護大学、京都府内に8校ございます。学生は、看護専門学校もありますので、20代の若い力を参加でなく、彼らの柔軟な頭と活動力を先日の異なる会議で感じるところがございましたので、今後の取組の中で学生たちの若い力を取り入れてほしいと思います。

それからもう1点、今イベントが目白押しです。看護協会も土曜日曜は、研修、イベントなどで、医師会も同様かと思いますが、動ける人数が2、3人しかいないので、これだけイベントが市民府民向けのイベントが増えると、とてもそこに出ていけない状況になっているのかなと思います。是非大きな会議ができたときに、来年度に向けて整理ができたらとお願いともどもしたいと思います。

○中山議長

長く続けていくことが大事かと思えます。色んなことを見直していきたいと思えます。薬剤師会の茂籠委員よろしくをお願いいたします。

○京都府薬剤師会（茂籠専務理事）

薬剤師会です。今、行政主体のイベント、これから行われる「市民すこやかフェア」、京都府のイベント、色々なイベントに我々も参加します。その中でブースに来られる方はほぼ健康寿命の延伸の対象者として非常に多いです。行政主体のイベント、健康イベント、これは主体的に、こちらが積極的にやっていく方ですが、今回、これは市民主体の運動を作り上げていくということですが、最初に医師会の藤村先生からもありましたが、何か具体的な取組を、何かインセンティブを与えとか、そういうような目標を持たれた方が、市民主体の運動ですので、例えば毎日5,000歩とか、5,000歩

いた人にはインセンティブを与えると何か具体的なものがないと、永きにわたってや
って行くのはしんどいと思います。もう少し具体的に何かあればいいのかなと思います。

○中山議長

歯科医師会の岸本委員よろしく願いいたします。

○京都府歯科医師会（岸本理事）

健康寿命や平均寿命というものは、行政がデータ化するとき全体像の数値として扱
いますが、実際にこのプロジェクトで大事なものは、個人だと思います。個人にとっては、
健康寿命や平均寿命という言い方よりも「長寿」という言い方の方がしっくりくる。今
回、京都市が対象とするのは、団体ではなく、個人だと思いますので、区分けをしっか
りとしていくことで、言葉の問題はある程度解消できると思います。

これは、ちょっとした私の疑問なのですが、煙草をスパSPA吸い、お酒をガブガブ飲
み、歯周病も大変進んで「明日死んでもいい」と思っている人も中にはおられると思
うのですが、そういう人に対してこのプロジェクトとしてはどう立ち向かっていけばよろ
しいでしょうか。

また、企業検診も色々ありますが、受診率が非常に低い。先ほどから「健康を考え
る企業」がキーワードになっていたと思います。職員や従業員の力が発揮されることで
初めて値打ちが出る、つまり、その人の資質が100%発揮できる環境づくりが必要で
す。例えばお口の状態が悪い時など、仕事はかどらなかつたりすると思います。そう
いった環境づくりが、ひいては今回の取組につながり、理念になってくると思います。

「具体的な取組」の中に「多様な健康づくりの情報発信」という文言がありますが、発
信などにとどまらず、協働していく姿勢まで私は示して欲しいと思います。一つの参考
例になりますが、子育て支援パスポートというシステムがあります。様々な個人や企業
が加わって、自分たちができることから進めていく取組です。おそらく全国的にあると
思うのですが、今回のプロジェクトに案外マッチするのではないかと思います。

○中山議長

例えばパネルディスカッションの中でのテーマでも面白いですね。こういう人にはど
うしていきべきか、のように色々検討していければと思います。

○栗山准教授

私は何年か前からこの会議に、この場所に座ってずっと見てきましたが、同じ面々が
おられるのが10人もおらず、毎年顔が変わっています。「継続性」が重要だというの
が1点目かと思います。各団体、オブザーバー的なお話しをするのであれば、これまで
事務局におられる方で、例えば保健医療課長で交通局などへ移られた場合、バスなどの

公共交通を利用するような健康，まちづくりの形でコラボレーションができないかと常々思っています。例えば水道局へ移られた方には，おいしい水の作り方など，京都市内の中でのコラボレーションを是非していただきたい。交通局へ移ったから，バスの時刻表を作るだけでなく，水道局に移られたら水は安全だと訴えるだけでなく，そういういっぱい人材が隠れているのではないかと思います。

ずっと何年かさせていただいて，移った先々で活躍されて，うれしいのですが，あえて連携をお願いしたいというのが第1点です。

もう一つは障害者の方についてです。障害者の団体について3つほど書かれています。例えばバリアフリーの問題など，幼少期，青少年期，女性，高齢者については，よいのですが，障害者，学生協力で障害者施設に学生と一緒に先月先週も行っていましたが，そのあたりのキーワードについて抜けているのではないかと思います。

3点目として，各団体から色々要望があったのですが，名前を載せてあげるということはすごい重要ではないか，広報活動の中に名前をコミットして，それがインセンティブになるか分かりませんが，ボランティア，何とか活動もあれば，それもきちんと載せていく。

4点目として来年度のことですが，継続性のお話で，神社仏閣，民間団体などがございました。このあたりについても，もしキックオフするのであれば，今話聞いたら，話が分かるのですが，次回以降入る方は分からないのではないかと。広く先にPRしていただきたい。

最後に，我々の宣伝になるのですが，エビデンス，実践もということでお話がありましたが，ブースの中の10番に骨密度測定というもので，取り組んでいる中でコミットして，府立医科大学という名前も載っているかともいますが，学問的にも重要で，私も学者，臨床家であり，こういう行政に関わっていきたいと思うのですが，広く一緒にやっていきたいと思っておりますので，いくつか提案していきたく思います。

○中山議長

非常に有意義な御提案ありがとうございます。1点目の健康を起点とした人材の育成ですが，今までないような視点で非常に大事です。是非また御検討いただければと思います。

最後に，保健協議会の山内委員，よろしくお願いたします。

○京都市保健協議会連合会（山内副会長）

保健協議会は，京都市内に7，700名ほどの委員がおります。それでもって，委員として，市民検診をカウントしたり，環境問題などもやっております。健康保険法が変わりました。企業は企業でやるということになりまして，市民検診が集団検診に変わりました。その次に，受検者数が落ちまして。今は回復の兆しが見えてきております。

でもそれぞれ健康診断をお受けになる方、私はかかりつけに行っているので、大丈夫だからと、検診に行かない高齢の方でもいらっしゃる方が、多いです。実際は、昔の市民検診の時代では、そのときにひっかかった人たちが健康をだめにした。かかりつけの医者に行っているという人がだめだったと結果が出ているわけです。そういったことを市民の方々にもっと理解してほしいなと思いながら私たちは運動しているのですがなかなか理解を示していただけない。例えばこういうキックオフイベントを実施しても、表面的なものではありますが、ずっと話を聞いていまして、それぞれの部門ごとに良いところがあるのですが、そこを理解する術がないということが大変だと感じました。

市民の意思の問題だと思いますが、啓発活動のテーマはどうして検診があるのか、十分に理解いただく仕組みが必要ではないかなと思います。私どもも考えているのですが、なかなかそれに至っていないということで悩んでいます。今心配しているのが、会社を辞められた方が市民検診に来られない、企業検診は何をやっているのか、それすら分からないという状況下の中で、ますます健康寿命を伸ばしていこうと言いながら、健康を縮めている部分も感じています。

○中山議長

事務局から今までの意見、お尋ねしたいことなどあれば、どうぞ。

○事務局（志摩保健医療課長）

本日は様々な御意見をありがとうございました。冒頭、議長からお尋ねがございました、市内の大学数ですが、37の大学がございます。その他専門学校等がございます。

本日の資料では、活動場所の提供、機会づくり、この2つで神社仏閣と並んで大学ということで、御協力をお願いしていきたいということで記載しております。本日の御発言にもありましたとおり、知恵をお借りする、一緒に何かやっていくということでも、大きな力を京都市内においてお持ちかと思っておりますので、是非連携をさせていただきたいと思っております。

今日の資料について、ようやく具体的なことが見えてきたという評価も冒頭にいただきまして、キックオフイベントと市民会議、来年度に向けた取組などいくつか具体的なことをお示しをしたところでございます。

一方でまだまだ本日の御発言にもございましたとおり、色々な貴重な御意見をたくさん頂戴したと思っておりますし、その御発言も色々なお取組をされている分野、ライフステージ、職域、ステージごとに現に取り組んでいらっしゃる活動、データについて、国保連、協会けんぽなどの医療保険者の皆様、データがあれば、色々分析できる、研究できるなどと御発言いただきました大学等の学識者の方々、力がここに結集されていると思っております。前向きな御発言をいただいておりますので、何か実を結んでいけるように、より具体的に議論を深めていきたいと思っておりますので、どうぞよろし

くお願いいたします。キックオフイベントのことは後程お願いさせていただきますが、資料5の3枚目をおめくりいただき、(4)「健康長寿のまち・京都市民会議（仮称）」の正式発足に向けた組織のあり方及び活動内容の検討（素案）の「ア」の最後の○にも記載のとおり、この市民会議の健康大使、応援団ということでお引き受けいただける、著名な方に御就任をお願いして、この運動の情報発信、PRにお力をお借りしたいなど、あまり予算がございませんので、通常の謝礼程度で御協力いただける方について、もし心当たりがございましたら、各団体の皆様からの伝手がございましたら、是非御教示いただきますようよろしくお願いいたします。以上でございます。

○中山議長

それでは、次の報告案件に移ります。次期食育推進プランについて事務局から説明をお願いいたします。

【報告】次期食育推進プランについて

○事務局（志摩保健医療課長）

3枚めくって戻っていただきますと、資料6がございます。こちらの資料に基づきご説明させていただきます。

次期食育推進計画について、現在の取組状況について御報告させていただきます。昨年度の3月のこの場におきまして、次期食育推進計画のお話しの中でもアンケート、食育推進部会でもお話しをお伺いしまして、このあたりの御報告をさせていただいたところでございます。現行の食育プランは5か年の最終年度となっております。32年度までのプランを作っていこうということで、6月に市民の皆様からアンケート調査を行いました。本日御出席の皆様の中には食育推進部会にも御出席いただいております。ありがとうございます。先ほどもふれていただきましたが、第2回目の食育推進部会の資料ですが、資料1枚目ですが、左が現行のプラン、1の食育の普及促進から5の食品の安全安心の確保の5つについて取組を進めてきておりますが、現状等を踏まえまして、国の計画の動きも踏まえまして、右側に移りますが、次期食育推進プランの施策の方向性、施策の柱、4つの重点的な柱として、まず1つ目は、ひとりひとりの市民個人にはたらきかける実践を促す取組ということや、2つ目に個人だけでなく、その型をとりまく周りの環境にもはたらきかけていく環境整備の課題、京都ならではの食育の推進、京の食文化を意識した取組、食の安全安心の確保、その情報発信をしっかりとやっていこう、4つの柱で施策を進めていこうと検討を進めているところでございます。資料2枚目ですが、資料中ほど、分野別計画、この健康づくりプランでございますが、その6つの活動分野の1つとして食育推進プランを引き続き策定することとしております。資料をおめくりいただき、参考のところでもお示ししておりますが、現在、別に検討を進めております、食の安全安心に関します推進計画としっかりと連携することによりまして、

市民の皆様は心と体の健康を支える潤いのある食生活の実現を目指して、策定していくものであります。

資料もう1枚おめくりいただきまして、現在検討しております計画の体系図、上の方から御覧いただきますと、京都食育推進プラン2016を策定してまいります。健康寿命を延伸し、平均寿命に近づける、この現プランの目標を一番大きな目標として、一人一人の市民が「食」への関心を高め、適切な判断力を身に付けるとともに、「食」を通して「人」、「地域」、「世代」がつながり、すべての市民が生涯にわたって、健康で心豊かに暮らす、を基本理念といたしまして、先ほど御説明させていただきました4つの施策の柱とし、真ん中にございます、主な取組例など、新規に取り組む事業を含めて、取り組むこととし、右側の目指す姿、具体的にはこういう姿を目指していこう、ということ、取り組んでいく、その取組を進めるための計画として策定しようということで、この資料が骨格となります。現在、食育推進部会での意見をいただく背景となっております。会議での議論を踏まえて、12月にはパブリックコメントを実施していきたいと考えております。引き続き御協力をお願いしまして、この健康づくり推進会議の下で部会の御報告をいうことで御報告をさせていただきました。以上でございます。

○中山議長

ありがとうございました。全体の健康づくりの中で、食育推進は一步進んで具体化が進められているイメージではないかなと思います。

以上で本日の議事報告案件は終了とさせていただきます。皆様におかれましては、円滑な議事進行に御協力いただき、大変貴重な御意見、御提案を賜り、心より御礼申し上げます。それでは、事務局に進行をお返しいたします。

○事務局（志摩保健医療課長）

本日の推進会議の結びといたしまして、京都市保健所長の谷口から一言御挨拶申し上げます。

【閉会の挨拶】谷口医務監

本日は、皆様お忙しい中、京都市民健康づくり推進会議に御出席賜り、皆様、それぞれのお立場から専門的な御意見賜りまして、誠にありがとうございました。

先ほど、健康寿命のお話ありがとうございました。市民の健康寿命を平均寿命に近づけるといふ記載について、なかなかちょっと分かりにくいこともあったかと思えます。

京都市の健康づくりプランにおきまして、市民の健康寿命を延伸して平均寿命に近づけるといふことを目標として掲げておりますので、その文言から抜粋しているのですが、「延伸して」という文言を抜くと、平均寿命を下げたら目標に近づいてしまうというイメージになってしまいます。

市民一人ひとりの健康寿命を高める健康観，そういうものを高めながら，健康寿命を延伸していただくことが一番大事だと思います。

健康寿命の数値の計測の仕方につきまして，厚労省から全国的に示されているのは，3年に一度の国民生活基礎調査，主観的な意見に基づくものですが，数年前は，そのデータは市町村では得られないと言われておりまして，京都市では介護保険のデータに基づく数値を，厚労省がそちらで計算しても良いと言われる手法で計算したところ，平均寿命との差が2年，ほとんど平均寿命だと，そういう数値が出てしまいました。

それが今度は全国比較のデータとしてふさわしくないということで，昨年から京都市でも国民生活基礎調査に基づく，女性で12歳，男性で9歳という，平均寿命との差縮めていこうということで取り組んでおります。

健康づくり推進会議の構成団体の皆様には，今後，キックオフイベントへの参加，京都市市民会議準備会への参画など，様々な形での御協力をいただくこととなります。引き続きまして，健康長寿のまち・京都の実現に向け，市民の活動の輪が広がり，市民ぐるみで健康づくり活動が推進されますよう，御理解と御協力を賜りますよう，お願いいたします。結びの挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

○事務局（志摩保健医療課長）

最後になりますが，お手元にお配りしておりますチラシですが，11月28，29日に開催される健康長寿のまち・京都キックオフイベントのチラシでございます。メインステージの内容，左下にもございますが，門川市長の御挨拶からスタートしますが，デモンストレーションと皆様と一緒に体験いただきますが，このイベントの時間帯に多数御参加いただくこととあわせまして，「市民すこやかフェア」，同じ建物の中では，やんちゃフェスタ，エコまち，コンシューマーフェスタなど色々なイベントがみやこめっせで多数実施されておりますので，是非足をお運びください。チラシですが，机の上に30部ずつ配布させていただいております。お荷物となり，大変恐縮ですが，お持ち帰りいただき，市民の方向けの広報等にも御協力いただけましたら，幸いです。追加も多数用意しておりますので，お申し付けいただけましたら，追加でお渡しさせていただきます。

それでは，第3回の京都市民健康づくり推進会議を終了とさせていただきます。次回の健康づくり推進会議については，年度末，3月を予定しております。これとは別に，市民会議の方で，本日お集まりの皆様これからお世話になろうかと思っておりますので，そちらの方でも是非よろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。